

IV 京都市を除く結果の概要

1 教科の概要

- 全国と比較して、D層（下位）の割合が少なく、全ての教科において平均正答率は全国並か全国平均を上回っている。
- 領域によっては、全国平均を下回っているものもあるが、全国の傾向と大きな違いはない。

(1) 小学校国語

- ・読むことの領域に課題が見られる。文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することはできているが、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付け（府正答率34.5%）たり、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約（府正答率29.1%）したりすることに課題がある。

⇒図表やグラフなどを含む文章を読む際に、文中の図表が、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表との関係を捉えて読むことができるように指導することが重要。

(2) 小学校算数

- ・他の領域に比べ、図形領域に課題が見られる。直角三角形の面積を求める際、底辺と高さを選択できず、示された三辺の長さをすべて用いて解答（府正答率62.1%）したり、二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述（府正答率48.3%）することに課題がある。

⇒図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導することが重要。

(3) 中学校国語

- ・読むことの領域に課題が見られる。登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできているが、文脈の中における語句の意味を理解（府正答率42.0%）したり、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもったり（府正答率22.7%）することに課題がある。

⇒文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが重要。

(4) 中学校数学

- ・図形及び資料の活用領域に課題が見られる。ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する（府正答率28.7%）、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する（府正答率9.8%）ことに課題がある。

⇒条件を変えても、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それらを図や式、言葉を用いて表現する活動の充実、大きさの異なる2つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を充実することが重要。